

フォレストニュース

ボラッチョ 酔っぱらいの木

今の時期、パラグアイの各地で、ボラッチョ（酔っぱらいの木）が花をつけています。季節は秋に向かい花の少なくなる時期にピンクの花を美しく咲かせます。



ボラッチョは、幹がビヤ樽のように真ん中が太くなっています。そして若い時の幹には、トゲがあります。歳をとるととげのあとだけが残ります。

モリンガ 順調に育つ

パラグアイにおけるモリンガ栽培は、生育も順調で、小鳥がたくさん木に止まるほどになりました。モリンガは特に、ミラクルツリーと言われて栄養豊富ですので、これからの活用が期待が持てます。国連の世界

食料計画にも取り上げられる奇跡の栄養素（90種）と約300種の薬効効果を持って人類の健康を作る木と注目されています。

モリンガの木は二年を経てしっ



モリンガは世界のこどもの栄養不足を救うといわれています



かりと幹が太く硬く成長し、背丈は高くなり過ぎないように剪定（早いものは1年で4メートルにも成長）していますが、立派に林が育ち、絶えず小鳥たちの憩いの園となっています。オウムや黒鳥、カージナルなど、沢山の種類の小鳥が楽しんでいる中で、何と云っても一際目立つのが、女王様のような気品のある白い小鳥です。（飯野元理事から）

モリンガ豆知識 モリンガが栄養豊富な点はよく知られてきました。一方で、水浄化の力が大きいのもモリンガの特徴です。

モリンガの種を砕いて、濁った水に入れてかき回すと、不純物を吸着して沈むようになります。殺菌力はありませんが、きれいな水を得ることができるのです。

また、葉をお茶として飲むと、栄養だけでなく体内の毒素を排出してくれるという働きもあります。

世界で2例目

農林水産省は、クリーン開発メカニズム（CDM）事業について政府承認審査結果を公表しました。今回認定されたプロジェクトは、（独）国際農林水産業研究センター（JIRCAS）のパラグアイ国でのパラグアリ県低所得コミュニティ耕地・草地再植林事業です。その一つとして、地球温暖化ガス（GHG）の吸収を図るものとしてユーカリ等の植林事業から。以下の内容が、国際機関で認証されました。クレジット獲得期間は、2007年7月25日から2027年7月24日（20年間）で、このプロジェクトによるCO2吸収量予測は、20年間の合計で約3万トンということです。

今後ますます植林によっての温暖化対策としての、CO2吸収が重要となっていきます。

お知らせ

■4月19日環境セミナー・川崎溝口・午後2時から3時間半・2000円・お問い合わせ下さい。

■フォレストニュースはメールでの配信となります。ご希望の方はメールでご連絡ください。

NPO地球の緑を守る会 発行 高津啓洋

〒158-0097東京都世田谷区用賀4-34-12グリーンハウスNo.2-231号
電話：03-5717-9358
ファックス：03-5717-9359
E-mail:midorinokainpo@yahoo.co.jp